

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

※PTA代表 (2名)  
※子ども会代表 (3名)  
※地域コーディネーター代表 (1名)  
・ 山上農産加工グループ代表  
※東地区区長会長 (1名)  
※民生児童委員代表 (1名)  
※読書ボランティア代表 (1名)  
※スクールボランティア代表 (2名)  
※野球指導者 (1名) ※空手指導者 (1名)  
※読書ボランティア代表 (1名)  
※保育園長 ※中学校長  
※校長 教頭 教務

### (2) 協議会の内容

※開催回数…年間2回  
5月 ・趣旨説明, 活動方針・活動内容の検討  
・地域ボランティア実施  
6月～2月 地域と進める体験活動の実施  
・1年 そばうち体験 ・3年 炭焼き体験  
・4年 かまど体験 ・5年 魚さばき体験  
・2, 6年 地引き網体験  
11月 ・ふれあい集会  
2月 ・実践活動の報告と情報交換  
・学校評価結果の考察, 評価書の作成  
・活動のまとめ考察と次年度への引き継ぎ  
事項について

### (3) 協議会における成果と課題

家庭・地域・学校協議会は家庭部会・地域部会・学校部会で構成し, 会全体の取組テーマ「地域に学び, 地域に生きる東っ子」の下, それぞれの部会で具体的な活動内容を相談し, 協力して活動を進めることができた。今年度は, 昨年度の取組の成果や課題を踏まえ, 「挨拶による地域連携の充実」「地域・関係機関との連携の推進」に取り組み, 児童会を中心とした朝の挨拶運動の拡大や, 地域コーディネーターの協力を得た体験活動を充実させることができた。今後, 積極的な情報交換などにより, 地域の一員として子どもが活動できる環境づくりを推進していきたい。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

本校の児童は, これまでも地域の方々に多くの協力をいただきながら, 豊かな活動を経験してきた。その経験を踏まえて, 「地域を元気に今私たちにできること」を合言葉に, 児童自らが地域に貢献できることを探り, 行動・発信する体験を通して, ふるさと美浜に誇りや愛着をもち, 新たな活力を生み出す人材を育成するとともに, 地域の活性化に貢献する。

### (2) 活動の実際

#### ① 地域ボランティア活動 (全学年)

日頃, 自分たちを見守り, 支えてくれる地域の人へ感謝の気持ちを持ち, それぞれの地域の課題等の改善のための活動を区長さんと相談しながら実践した。6年生が企画・運営を行い, 取組を進めている。近年継続して取り組んでいる活動であるので, 子どもたちも活動のねらいを理解し, 見通しをもって活動することができるようになってきた。

日頃, 知っているつもりになっている自分たちの地域を見つめ直し, 地域の人意見も参考にしながら, 自分たちが貢献できることは何かを考えて, 活動内容を決定することが, 本活動の一番の目的とも言える。地域の課題を考えるよりよい時間に



(様式3)

なるよう、前年度の反省を生かし、リーダーや区長さんとの事前打ち合わせを丁寧に行った。限られた時間の中での活動であるため体験自体に大きな変化はないが、全学年編成の集団登校班の班長を中心に、活動内容は何にするか、誰が何をどう進めていくかを自分たちで考えて取り組むことができた。

馴染みの地区とは言え、新年度の早い時期に自分たちが主となって地域に出向き、共に活動する機会は大変貴重である。一人一人が、日頃お世話になっている地域に貢献できたという充実感を持ち、地域とのつながりを感じられる活動として根付いてきた。学校と地域をつなぐ核となる活動として、今後もその充実を図っていきたい。

## ② 6年生「ふるさと美浜元気フォーラム 6年3小合同美浜元気プロジェクト」

6年生は、総合的な学習の時間を中心に、「美浜町PR大作戦」と銘うって、美浜町のよさや課題について考え、外部へ発信する学習を行っている。10月の修学旅行では、関西電力南港火力発電所で「美浜町PR」を行い、美浜町の魅力や課題などをしっかり伝えることができた。漫才などを盛り込んだPR活動、やまびこ米やへしこの特産品販売など工夫を凝らして取り組むことで、美浜町のよさを県外の方々に知っていただくことができた。

12月の「ふるさと美浜元気フォーラム」では、昨年度から3小合同で進めてきた「ふるさと美浜元気プロジェクト」として、上記の修学旅行の取組を含めた「美浜町PR大作戦の成果と課題」について発表した。また、美浜町の魅力だけでなく、美浜町の未来がよりよくあるために、自分たちの考える課題を解決するための色々な提案をポスターにまとめ、ポスターセッションで発信した。

校外の人々への発信をゴールとするこれらの学習により、自分たち自身が美浜町の課題やよさを見つめ直し、地域への愛着をさらにもつことができた。



### (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・家庭・地域・学校協議会に参画し、地域と学校の橋渡し役を務める。
- ・田植えから稲刈りまでの5年生の稲作体験へのサポート
- ・そばうち体験、炭焼き体験、伝承遊び体験のコーディネート

### (4) 特に工夫した事項

- ・昨年度の取組の成果と反省を踏まえながら、取組内容や方法の見直し、ICT機器の活用などの工夫を重ねることで、取組の質の向上に努めた。

### (5) 成果と課題

美浜町PR活動のような、子どもの主体性を重視し、地域の協力を得ながら、現地に出向いて調査したり発表したりする体験型の学習により、子どもたちの学習に対する意欲や質を高めることができた。また、ふり返りからも達成感や充実感が大きいことが分かった。

長年実践している地域ボランティア活動においても、子どもたちの主体性がより発揮されるような活動を展開していくために、高学年の児童が中心となるプロジェクト型の実践になるよう、地域コーディネーターをはじめとする地域力を生かした教員の工夫が必要である。